

超高齢者高血圧患者に対するAⅡ受容体拮抗薬・サイアザイド系利尿薬とAⅡ受容体拮抗薬・Ca拮抗薬の併用療法の比較検討

「高血圧症」は、一般に症状はなく、日常生活に不都合があることはあまりないといわれています。ただし、そのまま血圧が高いままにしておくと腎臓、心臓や血管に病気をおこすこともわかっています。一方、これらの患者さんでは、血圧を下げることで、腎臓などの病気のある程度予防できることもわかっています。今回あなたに飲んでいただく、ニューロタン錠やニューロタンと少量利尿薬が一緒になったプレミネント配合錠、アムロジピン錠という薬は、血圧を下げる「降圧薬」として厚生労働省の承認を受け発売されている医薬品で、これまで多くの高血圧患者さんで広く使われてきました。

プレミネント配合錠（ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド）について

私どもの体の中には、血圧を上げるアンジオテンシンというホルモンがあり、これが血圧を上げるもののひとつであることが分かっています。プレミネント錠は、このアンジオテンシンの働きすぎを抑えるアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（アンジオテンシンが血管などにくっつかないようにする薬）であるロサルタンカリウムに、チアジド系利尿薬であるヒドロクロロチアジドを加えた、国内初のアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬・利尿薬の配合錠です。

これにより、体の血管が広がり、また水分や電解質が調整されて、血圧が下がります。心臓や腎臓の負担を軽くする効果も期待できます。おもに高血圧症の治療に使用されています。病状にもよりますが、心臓病（心不全など）や腎臓病（腎硬化症、糖尿病性腎症など）にも有効と考えられます。血圧を適切にたもつことは、将来起こるかもしれない脳卒中や心臓病、腎臓病を防ぐことにつながります。

チアジド系利尿薬であるヒドロクロロチアジドは、腎臓が余分な塩分と水分を排出するのを促し、体内の液体量を減らすことで血圧を低下させます。

以上のロサルタンとヒドロクロロチアジドの2つの薬剤は、お互いの降圧作用を増強するのみならず、ロサルタンによって、利尿薬による尿酸値の上昇を軽減することから、非常に相性のよい組み合わせとされており、すでに全世界で広く使われています。

ニューロタン錠（ロサルタンカリウム）

アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の作用は、前述の「ロサルタンカリウム」の説明のとおりになります。

アムロジピン錠（ベシル酸アムロジピン）

アムロジピン錠は、それぞれ販売会社や薬剤の形が異なりますが、同じアムロジピンを主成分にしたお薬です。今では、数多くのジェネリック薬も販売されており、おもに高血圧や狭心症の治療に使用されます。

血管の細胞にカルシウムが流入すると、血管が収縮し血圧が上がります。

アムロジピン錠は、カルシウムが細胞内に入るのを抑え、その結果、血管が広がり血圧が下がります。このような作用から「カルシウム拮抗薬」と呼ばれています。この系統は効き目がよく、また安全性が高いので、高血圧の治療によく使われます。また、ゆっくりと効きはじめ作用時間が長いのが特徴です。アムロジピン錠は、他のカルシウム拮抗薬と違い、潮紅、頭痛、動悸などの副作用も少なくなっています。

高齢の患者さんで、アンジオテンシン受容体拮抗薬は非常に良い降圧薬であることはわかっていますが、それだけで血圧が十分に下がらない時に、利尿薬を加えて場合とカルシウム拮抗薬を加えた場合のどちらがより良いかについてわかりません。そこで、この研究では、プレミネント配合錠を飲んで頂く方と、ニューロタン錠とアムロジピン錠を飲んでいただく方で、高血圧の改善効果に違いがあるかどうかを検討します。